中でも、特に西歐の有名なる人々によりて畫かれた繪畫は、西歐の大概の博物館よりも更に豐富に所藏せられて居るといふ定評を傳へ、また其の貨幣の數は二十萬個以上に及んで居るといふこと位を傳へたならば、以て此の館の内容に富んで居る有様の一斑を語ることが出來ると思ふ、尤も品多きを以て尊しとせずだが、今は其六枚のラフワエルの三枚が怪しいとかいふやうなこと迄を書き連ねやうとするのではない。

博物館の利用

自分の學問上の關係から今も此等の品々の中で歴々と頭の中に印象を刻みつけられて居るものも少くはないが、それと同じ程度の印象は博物館其の物が觀覽者に對して親切であること、今一つは之を觀覽するものゝ數が非常に多いといふことゝで、つまり博物館がうまく一般に利用せられて居るといふことである、假令ば繪を寫す如き場合はそれであつて、何れの繪でも模寫を禁ずるとか、寫眞すべからずとかいふ様な制限はないのみか、此等の人の爲には一通りの必要の道具はチャンと館から貸し與へるやうになつて居て、寫す人はたゞ繪具と刷毛とを持ち込めばよいのである、三脚儿や大きな繪枠を荷厄介にかつぎ込むやうな雑作はせなくともすむ、これは歐洲の博物館は大概同一であると聞いて居る。自分に格別の縁故もない古泉部長のマルコフ博士が、館内にある丈けの大月氏の貨幣やトルコ種族の貨幣を型に取ることを承知して呉れたことなども、觀覽者に對する博物館の親切に外ならない。

觀覽者の群れ